

## 令和4年度前期学校評価自己評価書

(令和4年度後期 回答数 保護者…51名, 教職員…11名)

(4:よくできている, 3:できている, 2:ややできていない, 1:できていない)

### 1 「よく考え」

(保護者) 学校での学習や家庭学習について話題にしている家庭について「4」の回答が減り、「2」の回答が増えている。宅習の見届けに関しても「4」「3」が減り、「2」が微増している。読み聞かせや読書については前期同様「2」が多くなっている。全体的に平均が0.1ほど下がっている。

(教職員) 前期と比較するとどの項目でもポイントが上昇している。しかし、他の項目と比べると低い評価となっている。学びの振り返りや見直しをもたせる力の育成については授業の始め(めあて)と最後(まとめ, 練習)で指導を行っている。対話と表現を通した思考力の育成については、授業の中でペア学習やグループ学習の中で話し合いや練り合いを取り入れて授業を展開することができてきている。ICTについては、授業やデジタルドリルの活用がなされているが、学年によって取り組みに差が出てしまうことがあった。

- 
- ・ 単元の復習に取り組ませ、自信をもってテストに臨むことができるようにする。また、漢字や計算など基本的な内容については定期的に復習(小テスト, 家庭学習)することにより定着を図る。
  - ・ 単元テスト得点率80%以上を目標に全児童が達成できるように授業改善を図る。また、80点に到達していない児童には、再指導の上、通過できるように図り、自信をもたせる。
  - ・ 諸学力検査の分析を行い、学力向上委員会等で各学年の課題を洗い出し、弱点補強を行って次年度へつなげる。授業づくりについては、基礎基本の確実な定着を図るための取組や児童同士による学びあいや深め合いの時間を設定して思考力・表現力の育成を図る。
  - ・ ICT活用についてはタブレット端末を効果的に活用しながら授業づくりを行う。また、でもICTの活用について職員研修(校内・校外)を実施してスキルを高めていく。また、タブレットの持ち帰りについては積極的に進めながらルールを守って家庭学習を進めるように保護者への啓発を継続して行っていく。
  - ・ 読書活動については、図書室利用を積極的に進め、読書意欲を高めていく。また、毎月23日の「子供と一緒に読書の日」には親子で読書活動に親しむように啓発していき、家庭での読書活動が広がっていくように保護者へも呼び掛けていく。

### 2 「素直で」

(保護者) いじめについての指導ではほとんどの家庭が「3」「4」と回答しており、「いじめは許されないこと」という指導が家庭でも行き届いている様子がうかが

える（平均値 3.6）。あいさつの見本を見せること（平均値 3.5）について、「2」の数が減り、ほとんどの家庭が「3」「4」と回答していて家庭でのあいさつが改善されていることがうかがえる。家庭での手伝い（平均値 3.3）についても、「4」・「3」の回答が減少したが、平均値が 3.3 であり、全体的によく取り組んでいる様子がうかがえる。学校における人権意識や自他を認める指導について、「3」「4」が減り、「2」が若干増えている。

（教職員） 人権意識と自他を尊重し認める感情を確立するための指導（平均値 3.3）、「ほかほか言葉」、「気持ちのよい挨拶」の指導（平均値 3.6）については、1 学期同様高い数値になっている。学校生活内での子どもたち同士の関係や教師と子どもたちの関係についても丁寧な言葉遣いや自尊感情を高める言葉かけを行っている。「本気の無言清掃」（平均値 3.0）も教児共に時間いっぱい清掃しているが、普段の学校生活の中で整理整頓を心掛けたら、落ちているごみを拾ったりできる活動や実践力を育てていく必要がある。

- ・ いじめの認知と早期の対応ができるように、「いじめ等の発見のためのアンケート」を年 8 回実施した。認知した後の解決・解消に向けては、本校「いじめ防止基本方針」に基づき確実に行う。（いじめ対策委員会、心の教育推進委員会）また、普段から子どもたちの様子を把握し、変化等がみられた時には教育相談等を行う。そして必要に応じて保護者への連絡を行い早期発見、早期対応に努める。
- ・ 服務に関する指導を定期的に行い、セルフチェックやケーススタディを設定して常に教育公務員としての自覚をもって職務にあたるようにする。
- ・ 学期始めの「いじめ問題を考える週間」において、各教科、道徳科、学級活動等で指導する。
- ・ SC、SSWなどの外部機関と継続的連携を図り、不登校状況の対応と未然防止を図る。
- ・ 日常の挨拶や会釈などの生活指導や、人権同和教育の観点での道徳の指導を、今まで以上に充実させていく。

### 3 「ねばり強い」

（保護者） 「早寝・早起き・朝ご飯」、「歯磨き」（平均値 3.3）や交通安全や不審者の指導について（平均値 3.4）は、前期同様、家庭での指導が比較的なされているが、ビデオやゲーム等のメディアとの付き合い方の家庭での指導は、「2」が多くなっており、前期と比べると悪くなっている。交通安全や不審者への対応仕方の指導では平均値 3.4 で家庭でも指導ができていることがうかがえる。しかし、「2」が若干名いるので、「3」「4」に移行していけるように啓発を行っていく。子供に自信を持たせる声掛けについては「3」「4」が多く平均値も 3.1 である。一方で前期よりは減っているが「2」も 11 名いるので自尊感情・自己肯定感の育成については今後も啓発していく必要がある。学校での体力づくりは平均が 0.2 ポイント上昇している。11 月から朝の体力

つくりを再開した成果だと思われる。

(教職員) 規則正しい生活習慣の確立(平均値 3.0)については、『平川小のよいこのやくそく』を活用しながら指導を行っている。「新型コロナウイルス対応の指導」については、前期よりも 0.3 ポイント上昇している。コロナ対策の共通実践事項に全学年が同じベクトルで取り組んでいる成果が表れている。安心安全な学校づくりや児童の体力向上も前期より 0.4 ポイント上昇している。安全点検の実施や K Y T (土曜授業の日)の指導を行っている。体力づくりは朝の活動を再開したり、仲よし体育で縄跳び運動に取り組んだりしている。

- ・ 基本的な生活習慣の指導、安全指導、体力向上の指導、コロナ対応については、その都度具体的な指導、定期的な見届け、PTA や学級通信等で保護者への周知や協力、地域との連携を図りながら継続的に行っていく。
- ・ メディアとの付き合い方については、学校保健委員会で養護教諭から実態と対策等について説明をした。今後はさらに家庭教育と連携して、各家庭でのきまりの策定と実践を呼びかけ P T A や学級通信等で情報交換を行いながら改善を図っていく。
- ・ 児童アンケートや「学校楽しいーと」の分析結果を活用し、「ぼかぼか言葉・行動」への取組、授業、道徳の時間、学級活動の時間などの中で、自己有用感・自己肯定感を向上させる場面を工夫する。また、キャリアパスポートを有効活用しながらキャリア教育の充実を図る。(記録の累積⇒自他の良さをみつける、夢や希望のある将来の創造)

#### 4 教師の働き方改革について

(教職員) 「個人として働き方改革を工夫しているか」(平均値 3.3)、「組織として働き方改革が進むように工夫や協力をしているか」(平均値 2.8)で前期より 0.1 ポイント上昇している。

- ・ 行事や会議等の精選や、既存のデータを有効活用し、作業効率を上げる。
- ・ 職員週報に 2 週間分の行事予定や報告物関係を掲載し、見通しをもって計画的に職務にあたるようにする。
- ・ 次年度の教育課程編成作業では、全職員で共通理解のもと、行事の見直しや改善を図る。
- ・ 業務の見える化、見通しをもった計画、18:30 退庁を呼びかけて改善を図る。
- ・ 保護者へのアンケートについては、Web 回答(アンケート集約機能)を利用し、入力や処理の手続きの軽減を図る。

#### 5 保護者の自由記述から

- いつも親子共々大変お世話なっております。今後ともご指導よろしくお願い致します。
- マスクの着用に関して、今後登校の時どうするかなど議論してもいいのではと思います。世間の流れもそのようになりそうなので。
- 学校の指導に関する質問がありましたが、取り組みの実際がわかりにくい設問があり答えに困りました。